

## 1 事業ビジョン

事業の方向性、モノづくりの姿勢はどうあるべきでしょうか。

人間工学から感性工学へと進化を遂げて、「使いやすさ」と「ぬくもり」に包まれた空間を具現化し、「より人間的に」「より感動的に」をかたちにしていきます。

今、時代が求めているのは、「環境・安全・快適・安心」です。

これまで私たちは、人がどのようにクルマを操作するかを研究し、「より心地よく、より安全に、より安心に」をテーマとした「人間工学」をコアテクノロジーとして発展させ、多様な技術・技能の複合・調整力を培ってきました。

これから私たちは、「より人間的に」「より感動的に」をかたちにするため、統合的なデザイン力をベースとした「感性工学」の領域への進化・躍進を目指します。

健康、なごみ、もてなし、楽しみといった感性をも具現化し、「使いやすさ」と「ぬくもり」に包まれた空間を創造していきます。

また、グローバル競争に勝ち抜くため、技術・技能のさらなる融合を図ることで、未来志向の商品開発、技術・生産技術開発を効率的かつスピーディに行うとともに、モノづくりの熟成を目指します。



## 「使いやすさ」と「ぬくもり」に包まれた空間を創造

コアテクノロジーの進化

モノづくりの姿勢



## 2 機能ビジョン

お客様に感動を与える品質や製品を提供するには、どのような企業力が求められるのでしょうか。

**私たちの強みである  
「機動力」「柔軟力」「即時展開力」  
をさらに発展させ、人と仕事の質の向上を  
目指します。**

私たちが手がける製品は、機能だけでなく、見栄えやフィーリングといった人の感性・感覚に属する品質特性を持つものが多く、モノづくりは格段に難しいと考えています。

「品質」はすべての仕事の結果であり、よい結果を得るためには、プロセスでの“仕事の質”と、それを支える“人の質”を高めていくことが大切です。未然防止を徹底するなど、さらなるレベルアップを図っていきます。

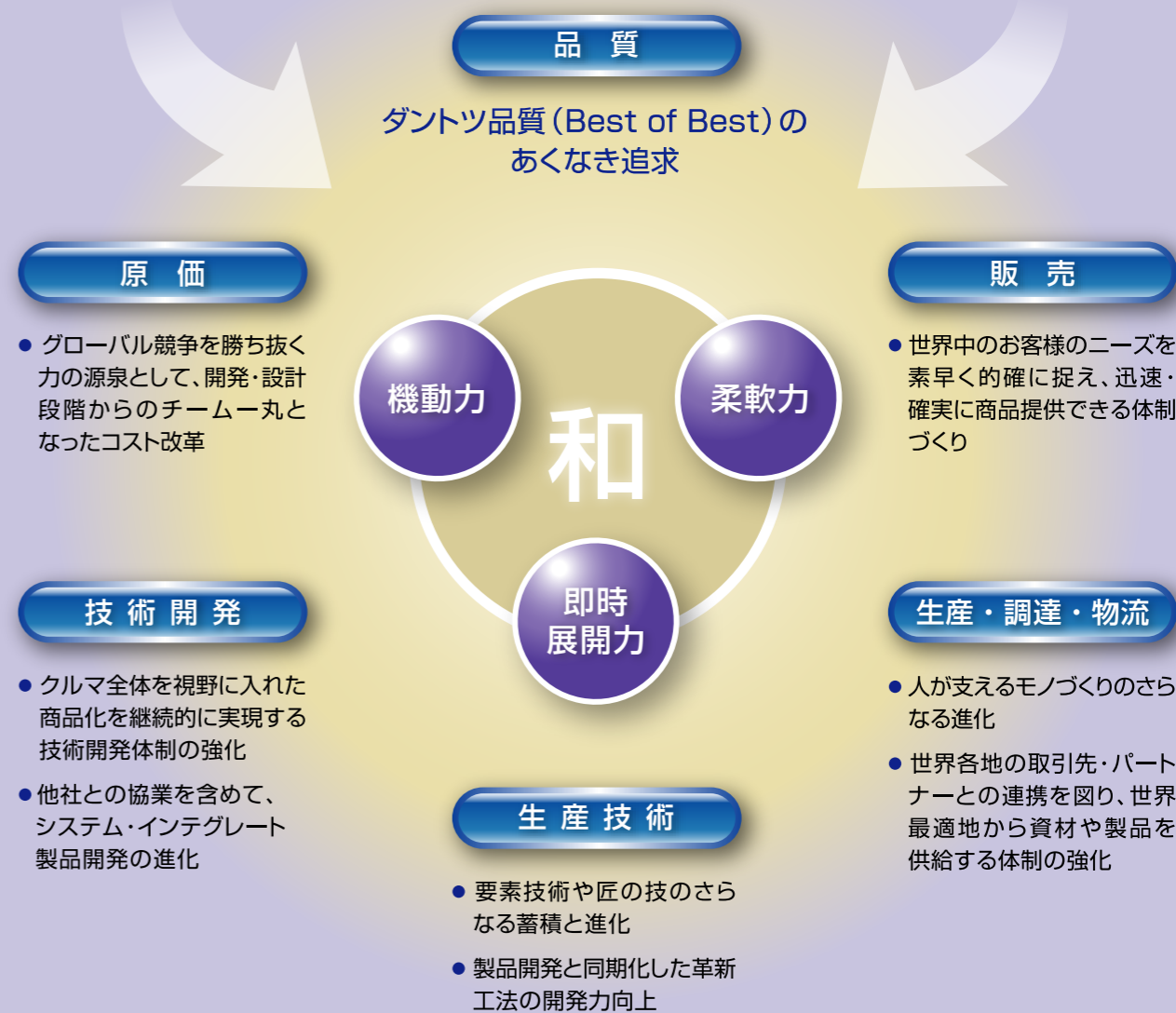
すべての質を高めていく上で、私たちには過去から培ってきた強みがあります。既成の組織や仕組みにとらわれず、状況や目的に応じて“人の和”を基盤に「機動力」「柔軟力」「即時展開力」を発揮できることです。この力をさらに発展させ、製品開発はもちろん生産、調達、販売などあらゆる面で質の向上を図っていきます。



## 世界のお客様に感動をあたえる品質・製品を提供

人の質向上

仕事の質向上



### 組織・マネジメント

- 開発段階から製品設計とモノづくりの連携・融合を実現する体制づくり
- 「改善→標準化・形式知化・IT化→改善」という、たゆまぬ改善への仕組みの整備
- 世界各地の人財育成の強化、訓練センター(ツールと教える人)の充実

### 3 地域ビジョン

真のグローバル企業集団となるためには、  
どうすべきでしょうか。

**世界に広がる拠点の自律とシナジーを両立させた  
グローバル経営を進めていきます。**

私たちが理想とするのは、世界に広がった各拠点がそれぞれに自律するとともに、全体でシナジーを生み出す世界最適化を目指したグローバル経営を行う企業集団です。

私たちは世界各地に製造・物流拠点を整備し、モノづくりを進めてきました。また、拠点間での供給など、それぞれの強みを生かした効率的な生産分担も進めています。

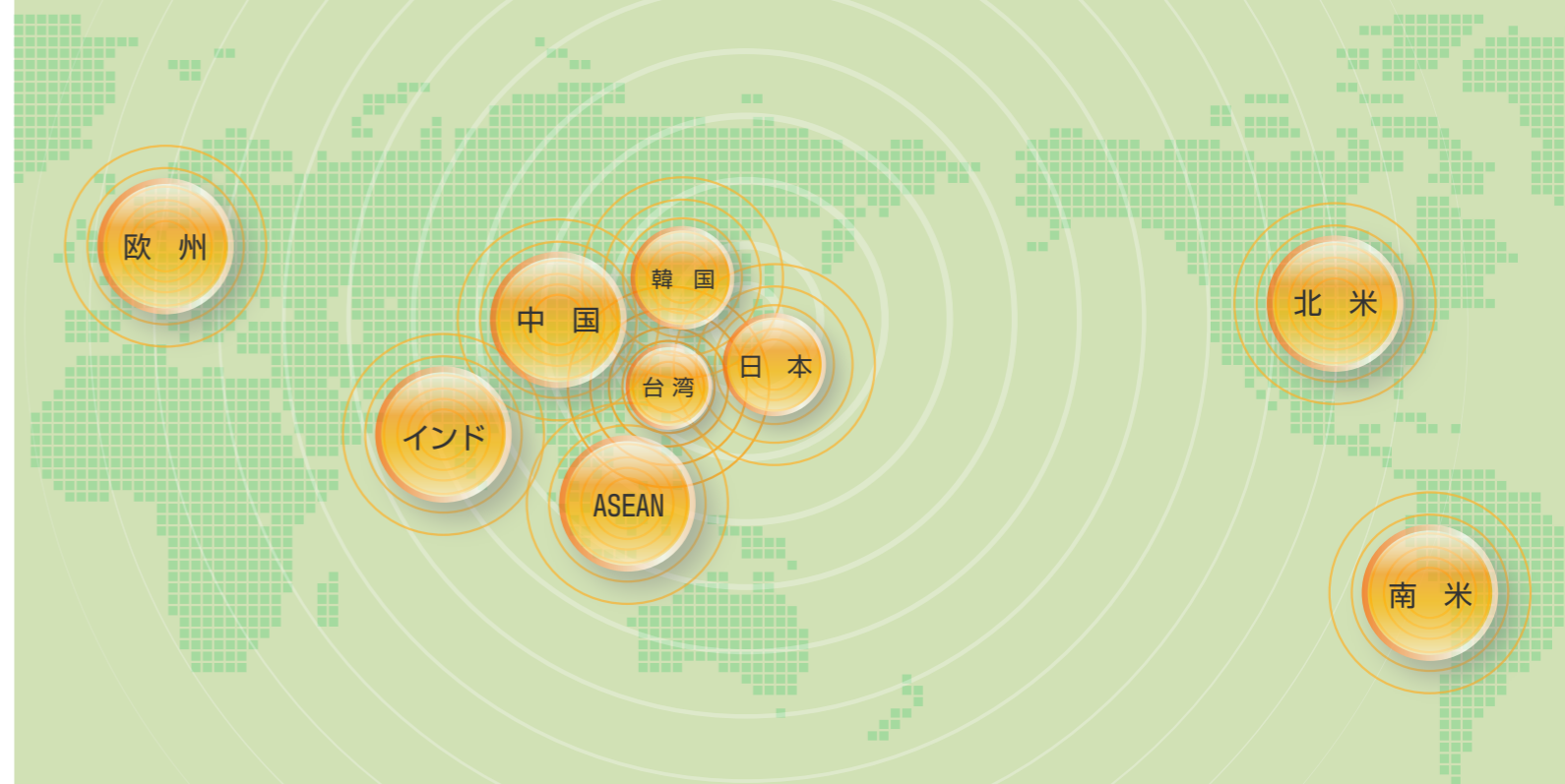
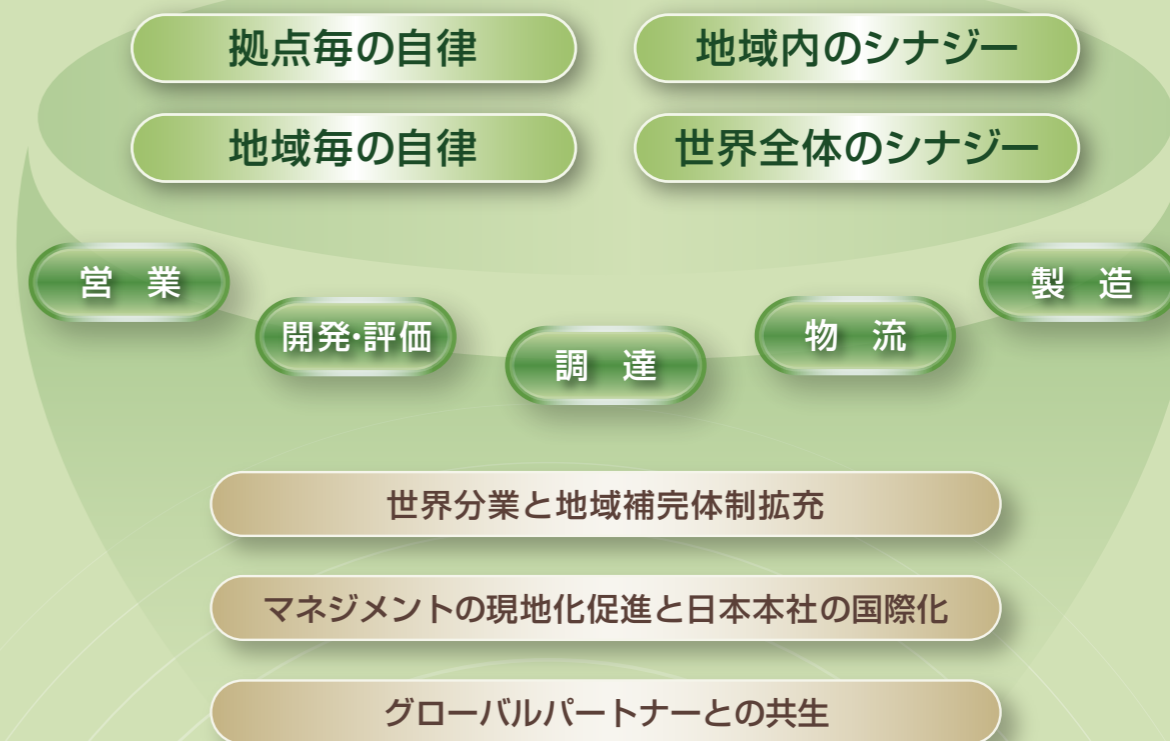
グローバル開発・評価体制も確立しつつあり、こうした世界分業と地域補完体制をさらに拡充していきます。

こうした中、世界各地でたゆまぬ改善がなされ、人が育つ土壌づくりに努めるとともに、各拠点間の連携強化、地域統括会社の機能充実など、地域密着型経営とグローバル経営の両立を目指します。

真のグローバル企業集団となるために、同じグループとして価値観を共有し、グローバル標準業務プロセスの確立・IT化などに積極的に取り組むとともに、ローカル経営者の拡充などによるマネジメントのさらなる現地化やグローバルパートナーとの共生を図っていきます。また、日本本社の国際化促進も積極的に進



## 自律とシナジーを両立、真のグローバル企業集団へ



## 4 風土ビジョン

私たちが守り育てるべき企業風土を、  
改めて考えてみませんか。

**自ら考え・鍛え、チームで考え・育ち、  
あきらめずにやりぬいていく企業集団で  
ありたいと考えます。**

国の違いを越えた多様な個性と人間性を尊重し、オープンでフェアであり続けることは、すべてに優先される職場づくりの大前提です。

その上で、私たちは「正しいことを、正しくやり続けていく」ことを常に意識し、自ら考え、改善活動を実践していきます。こうした過程を通じて、すべての現場が強くなり、自分自身が鍛えられ、チームが成長し、組織能力も高まります。

仕事を進めるにあたっては、現地現物の実践、問題を顕在化させる「見える化」活動はもちろん、「まずやってみる」姿勢を大切に、ねばり強く、あきらめず、最後までやりきる。これらの積み重ねにより、改善力や創意工夫力を磨いていきます。

個人の枠や部門の壁を越えて、前後工程・関連部署の領域まで手を差しのべるリーチングアウト活動も重要です。

社員一人ひとりが常に「目指す姿」を見据え、そこに向かって努力を続ける。それによりグループ全体のレベルが飛躍的に向上していく。こうした風土を熟成・進化させていくことが、私たちの理想であると確信しています。



## 自己実現、人財育成、人間尊重、オープンでフェア



東海理化グループ全体の飛躍的なレベルアップ